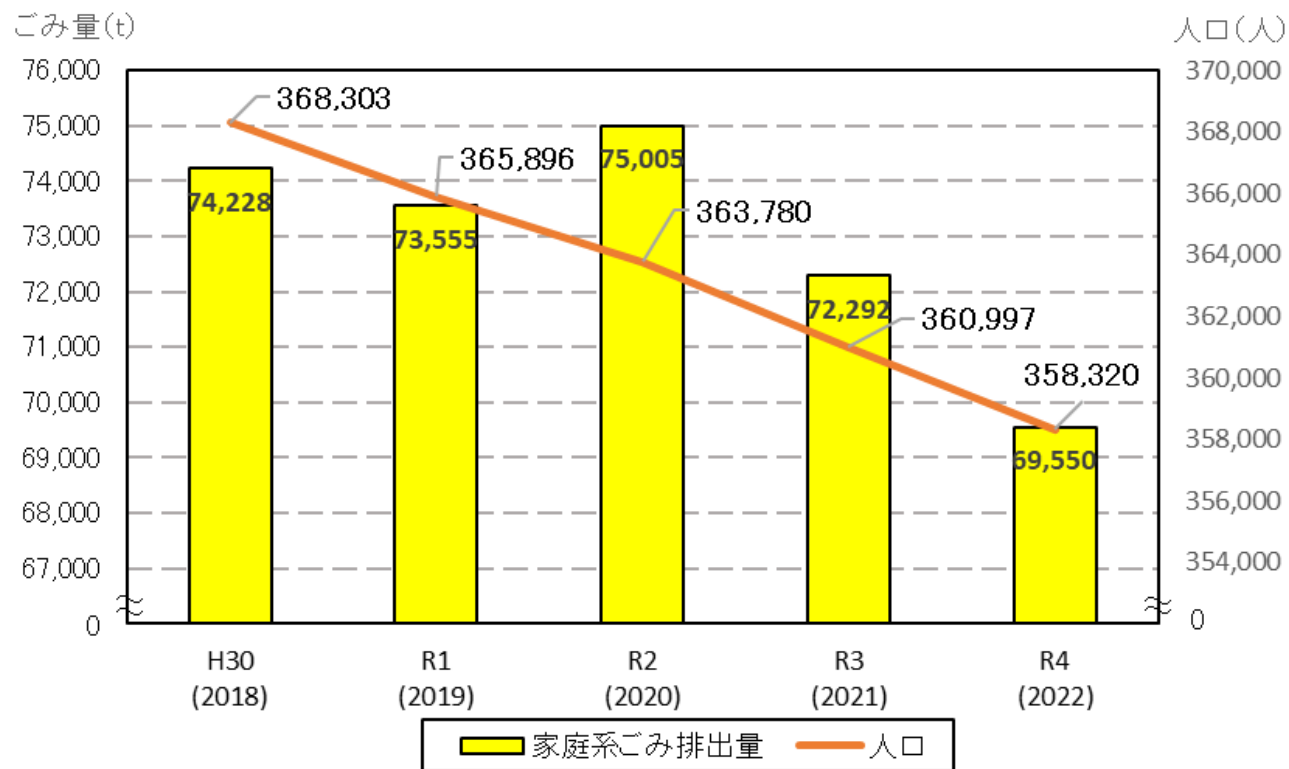


城南衛生管理組合 におけるごみ減量 施策について

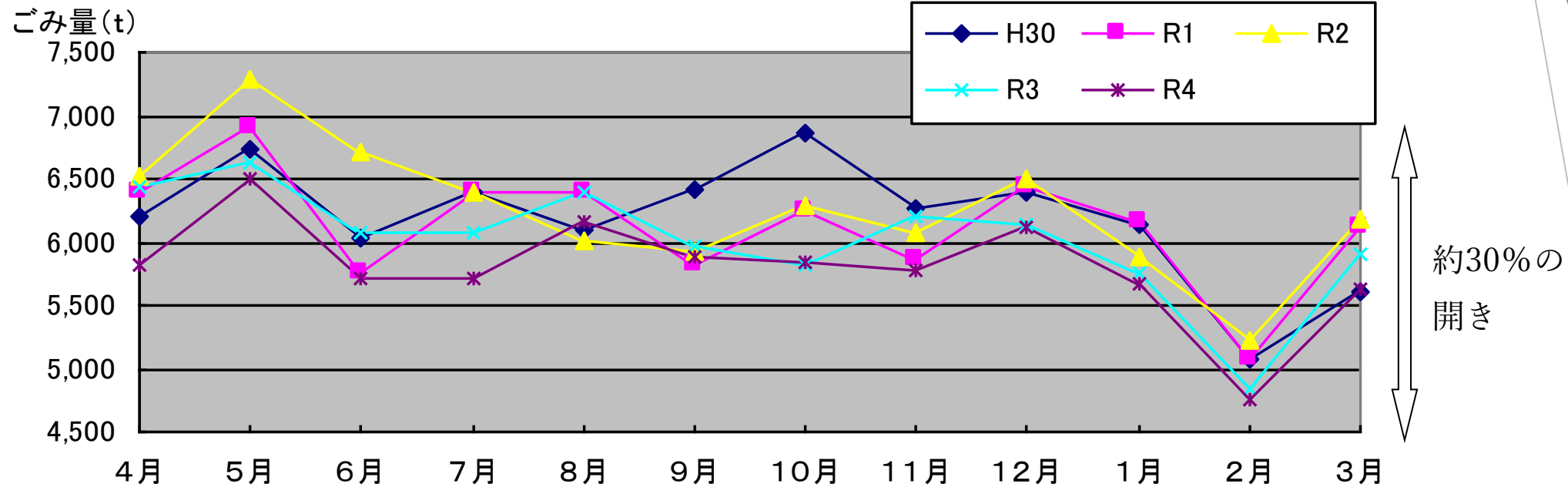
人口及び家庭系ごみ排出量

- ▶ 人口→減少傾向
- ▶ 家庭系ごみ排出量→令和2年度：新型コロナ禍による片付けごみが一時増加
それ以外の期間は減少傾向
- ▶ 家庭系ごみとは→家庭から排出される廃棄物で、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ等に資源物（ビン、カン、ペットボトル等）を加えたもの。
※ 集団回収量は含みません。



月別排出量の推移について

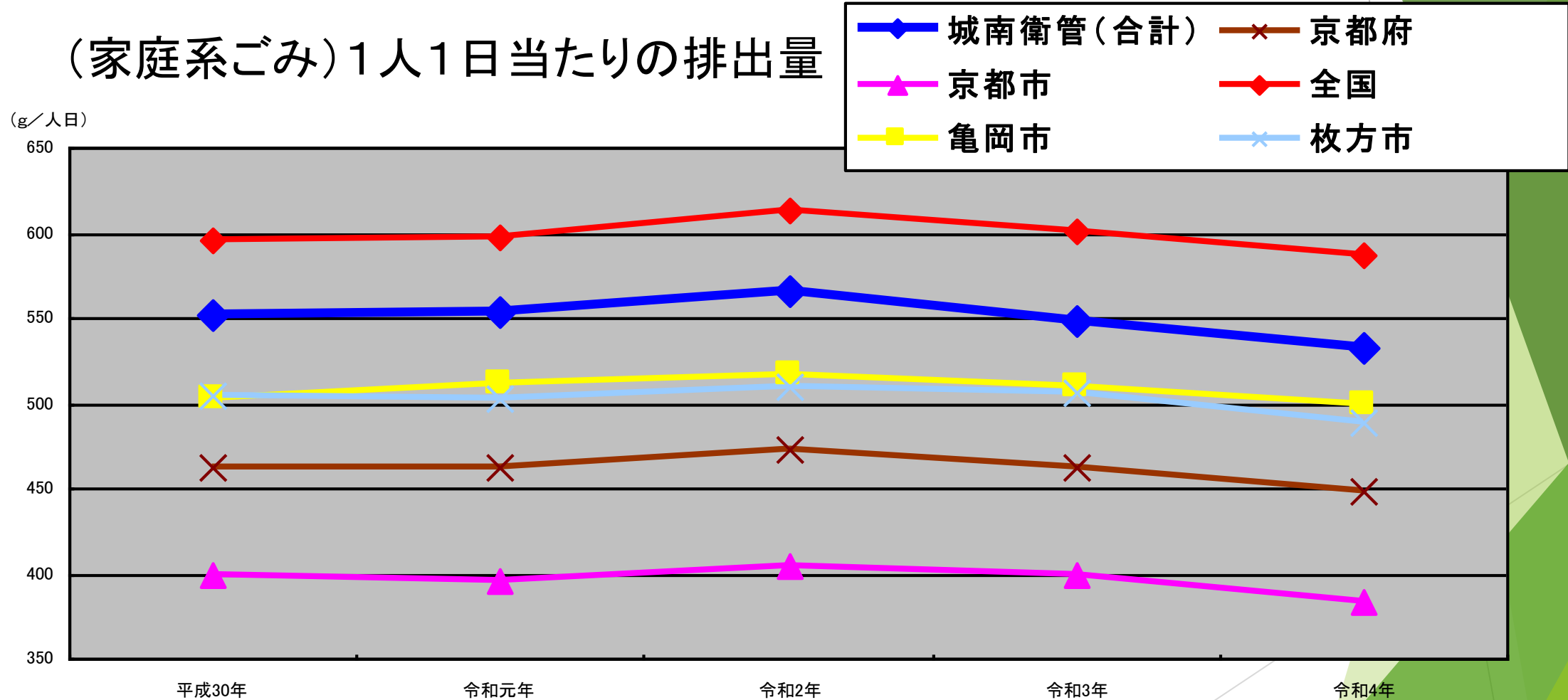
家庭系ごみ排出量の月別推移



- ▶ 5月の排出量が多く、2月の排出量は少ない傾向
 - ▶ 年間のごみ総発生量は減少傾向
- ↓
- ▶ 排出量が多い月を少ない月のレベルにまで削減できれば、よりごみ減量を進めることが可能となる

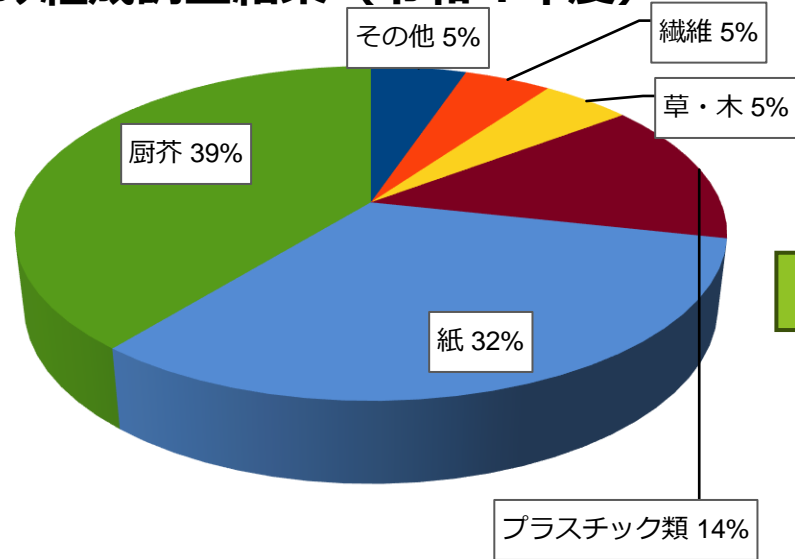
一人一日当たりの家庭系ごみ排出量

(家庭系ごみ) 1人1日当たりの排出量



家庭系可燃ごみの組成について

ごみ組成調査結果（令和4年度）



▶ 生ごみ（食品ロス）、紙ごみ、プラスチックごみが、家庭から出る燃やすごみの8割以上

▶ 生ごみ、紙ごみ、プラごみの削減が減量につながる！

どんなごみがリサイクルできるのか

生ごみ、紙ごみ、プラごみの削減方法

施策例	リデュース：発生抑制	リユース：再使用	リサイクル：再生利用
生ごみ	水切り、食品ロス対策 フードドライブ	エコレシピ、子ども食堂、フードバンク、みんなの冷蔵庫	堆肥化、メタン化
紙ごみ	ペーパーレス化	裏紙利用、使用済封筒の再利用	古紙回収、R P F
プラごみ等 その他	脱プラ：マイバック等 レンタル食器	LOOP ジモティー メルカリ	PET水平リサイクル



- ▶ 住民にきれいに正確に分別してもらう必要がある

組合管内におけるごみ減量に資する取組一覧 について

構成市町 実施施策	リデュース：発生抑制	リユース：再使用	リサイクル：再生利用
生ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・食べきりをテーマにしたイベント ・生ごみ処理機の導入促進、補助金 ・食品ロス削減（フードドライブ含） ・フードドライブ回収拠点の協力事業所の追加募集 ・3キリ運動の推進 		
紙ごみ			<ul style="list-style-type: none"> ・古紙集団回収（古紙回収報奨金制度） ・雑がみや事業所からの機密書類の資源化 ・資源分別の啓発強化
プラごみ等 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・LED化の推進（長寿命化による廃蛍光管の削減） ・マイバック持参運動 ・長寿命製品または充電地の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外リユース事業（衣類、靴、カバン、ぬいぐるみ等） ・制服リユース ・自転車海外リユース 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラマーク製品の回収推奨・拠点回収（小型家電、小型充電式電池、廃蛍光管、ペットボトルキャップ、廃食油） ・小型充電式電池の回収体制整備（JBRCへの登録等） ・小型家電の対象品目拡大の検討 ・水銀使用製品の回収 ・缶やペット入り製品購入、店舗回収の推進 ・羽毛ふとんリサイクル ・リサイクルイベント開催（リサイクル対象品の一斉持ち込み）

可燃ごみに捨てられている紙ごみの実態



- ▶ リサイクル可能な資源物が焼却処分されている！
- ▶ みんなが正しく分別しなければリサイクルは進まない！



- ▶ **ごみの分別など環境意識への関心が薄い人に、環境問題を自分事として認識してもらおう！
どうすればみんな事として考えるように「行動変容」してもらおうことができるのか？**

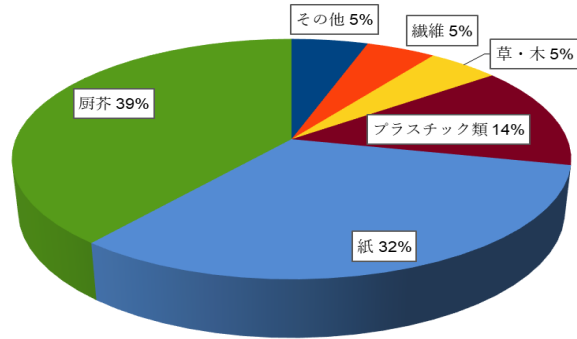
行動変容につながる環境政策の手法について

規制的手法	奨励的手法	経済的手法
定期的な展開調査 (違反ごみ不回収の徹底)	広報による周知啓発 ・ごみ・資源物排出カレンダーの全戸配布 ・ごみ情報紙の発行による情報共有 ・市政だより、ホームページによる周知 ・ごみ分別辞典、LINEアプリによる分別情報の提供 ・雑がみ専用保管袋の配布	エコポイント制度
監視カメラ(不法投棄防止) の設置	イベントによる周知啓発 ・使用済小型家電の一斉回収(小型家電のイベント回収) ・環境フェスタを活用しての3Rの啓発	デポジット制
監視委員の巡回	学習会等による周知啓発 ・出前講座やごみ処理施設見学会 ・エコ料理講座や生ごみ処理容器学習会	補助金 ・ごみ減量化補助金による家庭での生ごみ削減の支援 ・資源物回収奨励金による集団回収の支援

ごみの分別・減量等 における課題について

【課題 1】 資源化や減量化が不十分

ごみ組成調査結果（令和4年度）



▶ **生ごみ、紙ごみの分別努力で大きく削減できる可能性がある**

▶ 可燃ごみに

リサイクル可能な紙ごみは約20%（11,000 t）含まれている

生ごみも水切りや食品ロス対策推計から組合管内で約1,400 t 減量可能と推計

品目	可燃ごみに含まれる推計量	削減目標（案）	可燃ごみ全量に対する削減率
リサイクル可能な紙ごみ（古紙類等）	11,000 t	5,000 t	▲9.8%
生ごみ（動・植物厨芥）	—	1,400 t	▲2.8%

【課題2】 最終処分場（グリーンヒル三郷山）の埋立残容量には限りがある

▶ 最終処分場（グリーンヒル三郷山）の埋立可能な年数は約10年程度！

しかし、災害大国日本では、突然大規模な災害が発生するリスクがあります・・・

- ・南海トラフ地震といった大規模災害発生時には、膨大な災害廃棄物の発生が想定されます。最終処分場の埋立が急速に進み、埋立可能な年数が短縮される可能性があります。

▶ 最終処分場の建設には、計画から完成まで一般的に10年程度は必要と言われており、思っているより時間がない！

最終処分場の完成までには、適地選定、環境アセスメントの実施、処分場建設工事の実施等、長期期間を要することが一般的です。

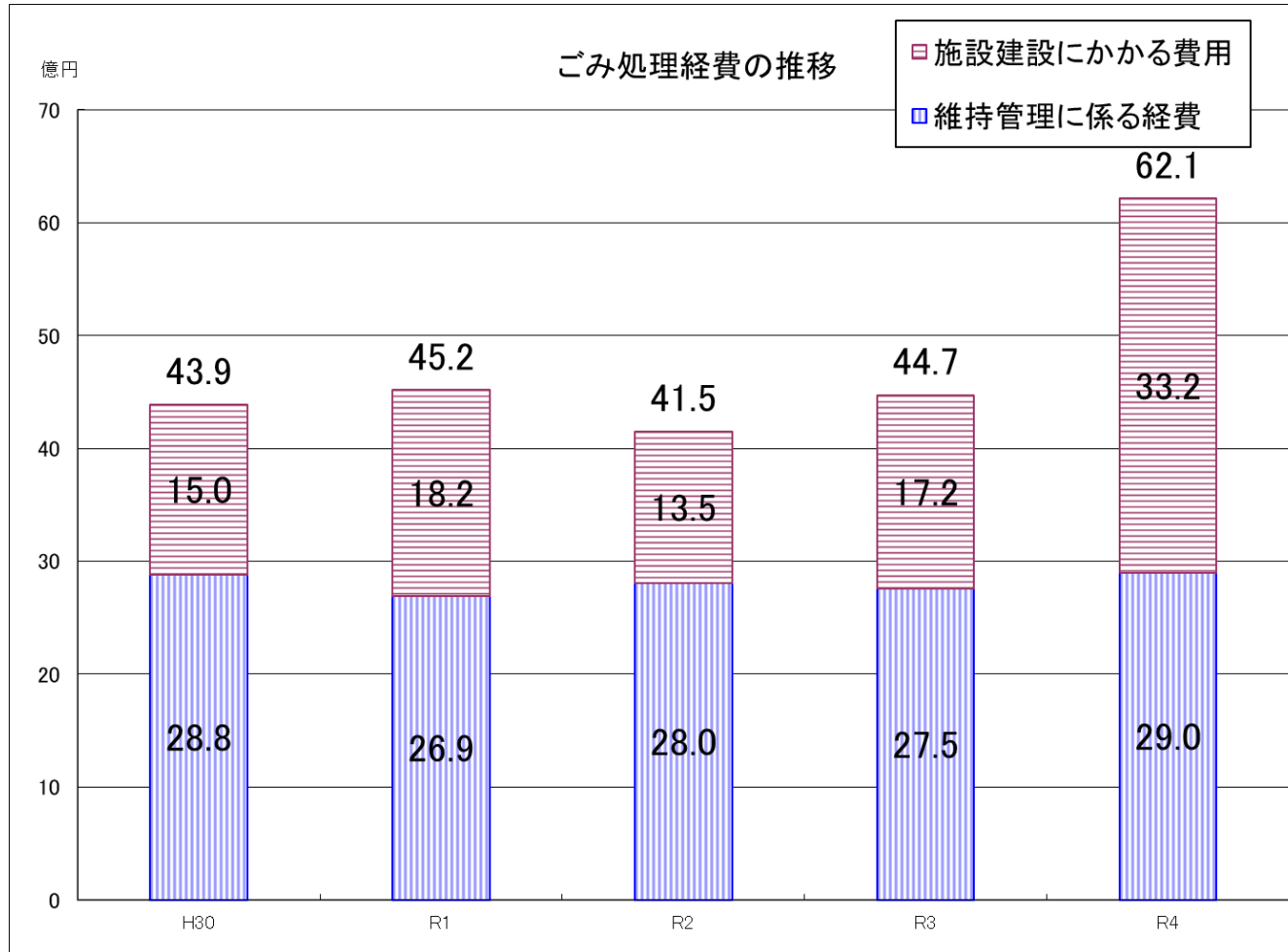


大規模災害の発生等による不測の事態により建設工事が遅延することもあり、現有する最終処分場を少しでも長い期間使い続けることが重要！



【課題3】

ごみ処理経費及び 施設建設にかかる費用の低減



主な事業	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
旧折居解体撤去跡地整備		→				
ごみ中継施設建設				→	→	→
新事務所棟建設					→	→
クリーン21長谷山長寿命化工事						→